



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2015年(平成27年)1月25日号 No.1650

目次

■ 2014年のロシアの乗用車販売動向	1
■ モスクワほっとニュース	4
日本食材店「NIPPON」社長インタビュー／4	
■ 『ロシアNIS調査月報』2015年2月号のご紹介	6
■ キーパーソン	7
コピャコフ・ベラルーシ首相の経歴(訂正)／7	
■ トピックス	7
横浜ゴム・ロシア工場で新車装着用タイヤ生産／7	

2014年のロシアの乗用車販売動向

はじめに

『経済速報』では、欧州ビジネス協会(AEB)が毎月発表しているロシアの乗用車販売データを、抜粋のうえ「統計速報」のコーナーで定期的に紹介している。AEBは1月15日、2014年通年のロシアの乗用車販売データを発表したので、今回の速報ではいつもよりも図表を拡充して、AEB発表のロシア乗用車販売データをご紹介します。なお、当会では後日、『ロシアNIS調査月報』において、より詳しい解説記事を掲載する予定である。

AEBの発表によれば、ロシアにおける乗用車(新車に限り、小型商用車を含む)の販売台数は、図表1のように推移している。2014年の販売台数は249万台で、前年比10.3%減少した。2012年に過去最大の294万台を記録した後、2年連続で低下した形となった。

しかし、図表2に見る月別の販売動向は、奇妙な軌跡を描いている。春から夏にかけては不振一色となったものの、リセッションやルーブル下落が顕著になった秋以降、むしろ販売が盛り返し、12月にはついに過去2年間の実績すら上回ったのである。巷間言われているように、通貨ルーブルの下落に見舞われたロシア国民が、資産防衛的な目的で乗用車の駆け込み的な購入に走ったことが主原因と見られる。

ブランド別の販売台数を図表3に、主要モデルの販売台数を図表4にまとめた。これを見ると、赤く網掛けした日系ブランドの数字は決して悪くなく、むしろ多くのブランドが販売増を達成していたことが確認できる。